

息子の名冠し救急13年 「健志号」引退へ



13年近く走り続けた大垣消防組合(本部・岐阜県大垣市)の救急車「健志号」が、年内にも役目を終えて退く。交通事故で息子を失った両親が「二人でも多く命を救いたい」と、息子の名を付け、寄付した車だ。出動は約1万回。サイレンの音を聞くたび、母は「がんばれ、健志号」と呼びかけた。14日は息子、種田健志さん(当時19)の13回目の命日。健志号の引退に両親は「また息子がいなくなるみたいでつらい」と話す。

こともある。

今年9月半ば、消防組合から「よく働いてくれましたが、今年引退させようと思います」と連絡があった。息子の死に目に遭うようなつらい思いを感じたが、引退を受け入れた。

健志号配備と同じ03年に大垣消防組合で第1号の救急教命士になった浅野勇志さん(50)は「両親と健志号には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです」と話す。

浅野さんが記録を調べたところ、健志号の出動回数は約1万回で、走行距離は10万3360キロ。8月末から同県津市で開かれた世界ポト選手権での待機が花道になった。

父親の恒夫さんは5年前に脳梗塞を患い、つえを使う生活だ。しかし救急車には乗ったことがない。健志号に別れを告げるため、一度乗せてもらえないだろうかと考えている。

「ご苦労さんと言ってやり、家族との引退式をしたいのです」

健志さんは、大垣市二丁、仕事仲間にも慕われ、愛する丁目の種田恒夫さん(61)、愛子さん(59)天、念の思いも込め、健志号の資格を備えてい

家の前を救急車が通ると愛子さんはサイレン音を聞き分け、健志号とわかると表に飛び出して「がんばれ、健志号」と声をかけた。近所の人か「健志号で運ばれて命拾いをした」と言われた。

配備は03年4月、大垣市など1市5町でつくる「大垣消防組合」で初めての「高規格救急車」だった。救急教命士が十分に

配備は03年4月、大垣市など1市5町でつくる「大垣消防組合」で初めての「高規格救急車」だった。救急教命士が十分に

家を前を救急車が通ると愛子さんはサイレン音を聞き分け、健志号とわかると表に飛び出して「がんばれ、健志号」と声をかけた。近所の人か「健志号で運ばれて命拾いをした」と言われた。

配備は03年4月、大垣市など1市5町でつくる「大垣消防組合」で初めての「高規格救急車」だった。救急教命士が十分に

岐阜・大垣 両親「ご苦労さま」 出動1万回



●健志さんの遺影を手に思い出を語る種田さん夫婦。岐阜県大垣市二葉町8丁目。自宅に「救急車「健志号」」。側面後部に名前が書かれている。大垣市外野3丁目の消防署で